

ヘンリー王

- 1 三つのことに欠ける男は
求婚に行っても 所詮無理
一に財産 二に寛容
三には深い思いやり
- 2 この話はヘンリー王のこと
たったひとりでお昼寝でした
それから 町から七マイル離れた
立派な狩り小屋へ出かけました
- 3 目の前の鹿を追い
谷でノロジカを追いました
群れの中で一番太った雄鹿を
ヘンリー王は射止めました
- 4 射止めた鹿を持ち帰り
美味しい鹿肉をいざ堪能というとき
恐ろしい亡霊が入ってきて
ヘンリー王の前に立ちました
- 5 頭がお城の屋根梁に届くほど背が高く
腰回りも計れないほど大きな亡霊
ヘンリー王は豪華なマントを亡霊に投げ
「亡霊嬢よ 服を着なさい」
- 6 亡霊の歯は牛馬を繋ぐ杭ほど太く
鼻は棒か小槌のよう
そんな姿は
地獄の悪魔よりほかありません
- 7 「肉を 肉を ヘンリー王よ
何か肉を分けておくれ」
「亡霊嬢よ この城の何の肉が欲しいのか
何の肉を分ければよいのか」
「サンザシの実の色をした王の馬
あの馬を殺して持ってきておくれ」
- 8 サンザシの実の色をした馬を殺すとき
ヘンリー王の胸は張り裂けんばかり
亡霊嬢は皮も骨もむしゃむしゃたいらげ
残ったのは固い皮とたてがみとしっぽだけ

9

「もつと肉を もつと肉を ヘンリー王よ
もつと肉を分けておくれ」

「亡霊嬢よ この城の何の肉が欲しいのか
何の肉を分ければよいのか」

「血統書付きの王の猟犬

あの猟犬を殺して持ってきておくれ」

10

血統書付きの猟犬を殺すとき

ヘンリー王の胸は張り裂けんばかり

亡霊嬢は皮も骨もむしゃむしゃたいらげ

残ったのは固い皮と被毛だけ

11

「もつと肉を もつと肉を ヘンリー王よ
もつと肉を分けておくれ」

「亡霊嬢よ この城の何の肉が欲しいのか

何の肉を分ければよいのか」

「毛並みも艶やかな王のオオタカ

あのオオタカを殺して持ってきておくれ」

12

毛並みも艶やかなオオタカを殺すとき

ヘンリー王の胸は張り裂けんばかり

亡霊嬢は皮も骨もむしゃむしゃたいらげ

残ったのは羽根ばかり

13

「飲みものを 飲みものを ヘンリー王よ
何か飲みものを分けておくれ」

「亡霊嬢よ この城の何の飲みものが欲しいのか

飲めないものは何なのか」

「殺した馬の皮を縫い合わせ

それに入れて飲みものを持ってきておくれ」

14

ヘンリー王は血だらけの馬の皮を縫い合わせ

そこに大樽一つ分のワインを入れました

亡霊嬢は一息で飲み干して

後には一滴も残りません

15

「ベッドを ベッドを ヘンリー王よ

わたしにベッドを作っておくれ

緑のヒースを集めて

わたしにベッドを作っておくれ」

16

ヘンリー王は緑のヒースを集めて
亡霊嬢のベッドを作り
それから 豪華なマントを脱いで
ヒースの上に広げました

17

「服を脱いでおくれ ヘンリー王よ
わたしの側に寝ておくれ」

「ああ 神よ お赦しを^{ゆる}

こんなことがあるとは

地獄の悪魔が

ぼくの側に添い寝するとは」

18

夜が過ぎ 朝が来て

広間に朝日が差しました

見たこともないような美しい貴婦人が

ヘンリー王の側に寝ていました

19

「何という幸運か」とヘンリー王

「この幸運はいつまで続いてくれるのか」
すると 美しい貴婦人が言いました

「ヘンリー王さまのお命尽きるまで

20

「これまで たくさんの礼節の騎士に会い

たくさんの贈物をいただきました

でも わたしの意志を尊重してくださいましたのは

あなたさまが初めてです」

(中島久代訳)